

## 「光の道」WG (第6回)の結果について

### 1. 日時

2010年10月4日(月)10:00~11:50

### 2. 参加者

山内主査、北構成員、中村構成員、舟田構成員、吉川構成員

### 3. 議論の概要

10月7日開催の ICT 政策タスクフォース(2部会合同)への報告資料について確認後、アクセス網のオープン化の在り方、コア網のオープン化の在り方について意見交換を行った。

#### 【主な意見】

- NTT東西のFTTHのシェアが依然上昇傾向にあるのは、どのような要因によるものか。料金面で言うと、一芯単位の接続料が原因なのか。
- OSU共用に関し検証が必要な点について、更なる実験は計画されているのか。
- OSU共用について技術的な問題等があるとすれば、それを解決できないと、検討する意味がなくなるのではないか。
- NTTのシェアドアクセス1芯当たりの契約数が既に一定程度に達している中で、同じ地域に競争事業者が更に参入するのは、料金面で一定の考慮がないと難しいのではないか。
- NGNのアンバンドルに関する要望が、競争事業者から示されており、検討を深める必要があるのではないか。
- そもそもNTTのボトルネック設備は、他事業者が利用することを前提に構築すべきではないか。
- IP網への移行を進展させるためには、IP網でのマイライン、GC接続、番号ポータビリティといった難しい問題について早期に検討することが必要ではないか。
- 金融業界では、引受部門と営業部門との間のファイアウォール規制が存在し、相当厳格な体制を整備。また、当局からの検査が実効性確保の源になっている。
- NTTに対しては、卸業務と小売業務との情報遮断の規制があるが、その実効性確保の手段が重要ではないか。

### 4. 今後の予定

次回は、10月8日に開催することとなった。